

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 株式会社京葉銀行（証券コード:8544）

### 【据置】

長期発行体格付                      A +  
格付の見通し                        安定的

### ■格付事由

- (1) 千葉市に本店を置く資金量 4.6 兆円の第二地方銀行。格付には、資産の健全性の高さ、比較的良好な収益力、充実した自己資本などを反映している。JCR では、審査体制の機動的な見直しや市場部門での慎重な投資方針を通じて資産の健全性が保たれる可能性は高く、堅調な貸出業務やフィービジネスの推進などが比較的良好な収益力と充実した資本を支えていくとみている。
- (2) 基礎的な収益力を示すコア業務純益は、国内での超低金利環境が資金運用利回りを圧迫するなかでも、19/3 期で 3 期連続 180 億円台と底堅く推移している。ROA（コア業務純益ベース）も 19/3 期で 0.3% 台後半と比較的高水準にある。貸出業務では千葉県という恵まれた地盤を背景に中小企業向けと住宅ローンの残高が堅調に伸び、利回り低下に伴う収入減が相殺され、貸出金利息は 19/3 期にほぼ横這いとなった。法人向けソリューションビジネスの推進で役務収益を増やし、ローコスト・オペレーションを通じて経費も抑えているため、高クーポン債の償還に伴う資金利益の落ち込みが吸収されている。今後についても、貸出金利回りの低下や保有債券の償還などが資金利益を圧迫するが、本部組織での渉外人員の増員や営業店での渉外人員の再配置などを通じて貸出業務やソリューションビジネスを推進することで、現状程度の収益力を維持できると JCR はみている。
- (3) ローンポートフォリオは、住宅ローンが 4 割強、中小企業向けが 4 割弱とリテール融資が約 8 割を占め、全体として小口分散が効いている。業況に注意を要する大口融資先は少なく、不良債権の回収などが進み、金融再生法開示債権比率は 1% 台前半と低水準で推移している。中小企業向け貸出が多い割には要注意先債権が少なく、分類債権が総与信に占める割合は小さい。査定を厳格化した影響もあり、19/3 期の与信費用は 58 億円と前期比 45 億円増加したが、貸出残高対比で見れば 10bp 台後半に収まっている。本部の審査体制を強化している点も考慮すると、今後も与信費用が多額となるリスクは小さい。
- (4) 市場部門で抱えるリスク量は総じて限定的である。保有有価証券の約 7 割は超長期債を含む国債であるが、預証率（平残ベース）が 19/3 期で 19% と低いこともあり、円貨の金利リスク量は資本対比でみて小さい。外貨の金利リスクを内包する投信で抱える評価損の金額も保有株式などの評価益に照らして少額である。慎重な投資方針の下、今後もリスクテイクは抑制的に行われていくと JCR はみている。
- (5) 連結コア資本比率は 19 年 3 月末で 10.8%（前年同月末 11.0%）。貸出増に伴いリスク・アセットが拡大していることから、緩やかな低下傾向にあるが、業界内では比較的高い水準で推移している。経過措置に基づく資本算入額が少ないため、JCR が中核的と評価する調整後コア資本比率をみても 10% 台を確保している。内部留保の蓄積を通じて引き続き高い資本水準が保たれる可能性は高いと JCR はみている。

（担当）加藤 厚・木谷 道哉

### ■格付対象

発行体：株式会社京葉銀行

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A+	安定的

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2019年7月19日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三  
主任格付アナリスト：加藤 厚
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2014年5月8日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 株式会社京葉銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
  - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
  - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCR に対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果の確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であっても、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル